

札幌イオルの森シンボルガーデン

～記念植樹祭・シンポジウムのお知らせ～

‘23年5月20日(土) 13:00～16:00

会場：札幌市アイヌ文化交流センター

イオルの森づくりに参加しませんか！

イオルの森とは先住民族であるアイヌの人たちの文化や暮らしを支えていた生物多様性の高い森のことです。北海道開拓の歴史の中で、その多くが失われていました。私たちはこのイオルの森の再生を目指しています。

札幌アイヌ協会では、札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)の一角に、札幌イオルの森シンボルガーデンを造成します。現在、平取町など道内各地でイオル再生の活動が行われています。北海道開拓の中心地である札幌市においても、遅ればせながらイオルの森再生に取り組みたいと考えています。



平取町国有林内での植栽



オヒョウの樹皮の採取

この活動は、公益財団法人都市緑化機構および一般財団法人第一生命財団が主催(特別協賛第一生命株式会)する第29回緑の環境プラン大賞シンボル・ガーデン部門緑化大賞(別紙)に選ばれた受賞金で実施しています。

主催：札幌アイヌ協会 共同代表者 阿部一司・結城幸司 連絡先 011-596-1610(事務局)
企画協力：近自然森づくり協会 代表者 岡村俊邦 連絡先 okamura.toshikuni@gmail.com
協力：公益財団法人都市緑化機構、一般財団法人第一生命財団、第一生命株式会社、札幌市、平取町

実施スケジュールと開催場所

日時:2023年5月20日(土) 13時から16時

場所:札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)
外庭および交流ホール 札幌市南区小金湯27番地

実施内容

記念植樹(生態学的混播・混植法) 13時~13時50分 外庭

- ・開会挨拶 札幌アイヌ協会共同代表 阿部一司(5分)
- ・イオルの森および植樹法の説明 企画者 岡村俊邦(10分)
- ・生態学的混播・混植法の植樹(35分)

記念シンポジウム 14時00分~16時 交流ホール

- ・記念講演(40分)
「文化的多様性と地域の未来」
北海道大学 アイヌ・先住民研究センター長 加藤 博文 氏
- ・イオル関係ビデオ放映(30分)
「IWOR=イウオロの創造的再生と発展に向けた提案」他
平取町作成ビデオ
- ・札幌イオル再生に向けての話し合い(45分)
パネラー7名と参加者の討議 司会 気象キャスター 菅井貴子 氏
- ・閉会挨拶 札幌アイヌ協会共同代表 結城幸司(5分)

参加申し込み

- ・定員 記念植樹:先着50名、記念シンポジウム:先着100名
- ・申し込み方法:別添の参加申込書に必要事項を記入の上、事前にメールまたはファックスで申し込んでください。
- ・申し込み締め切り:2023年5月14日
- ・参加の可否:後日、参加の可否を申し込みメールまたはファックスの返信でご連絡します。

シンポジウム・パネラー

- ・加藤 博文:北海道大学 アイヌ・先住民研究センター長
- ・本田優子:札幌大学地域共創学群教授
- ・宮島 豊:フーム空間計画工房代表
- ・山田 裕一郎:ヤマダアートフィルム代表
- ・阿部一司:札幌アイヌ協会共同代表
- ・結城幸司:札幌アイヌ協会共同代表
- ・岡村俊邦:NPO法人近自然森づくり協会理事長

司会: 菅井貴子 気象キャスター

生態学的混播・混植法による緑化

住民参加による自然林の再生法

生態学的混播・混植法は、できるだけ「自然まかせ」にして、かつてその場所にあったような自然林をつくるという画期的な植樹手法です。従来の植樹に比べ、簡単で地域住民や子供たちにも参加しやすいことから各地の河畔林はじめ自然に近い樹林の再生に用いられています。

生態学的混播・混植法は次のような特徴を持っています

- ①地域の遺伝子を持つもので再生できる。
- ②種子や小苗が遷移を通して樹林を形成する。
- ③再生する樹木の種類は、地域の自然が選ぶ。
- ④従来の手法に比べコストが低い。

生態学的混播・混植法による緑化手順

自然林から種子を採種

種子まきつけ

近くの自然林から木の、実を集め、種子を取り出し、肥料分を含まない軽石主体の用土に播き付ける。

発芽

すべての種類の樹木の種子を3つの方法で播くことができる。用土の表面に砕石を置く。

多くの樹種は、翌年の春に発芽する。中には、2回の冬を越してから発芽するものもある。

発芽

灌水・管理

春に発芽し、初夏に茎が堅くなったら3~5本の実生(芽生え)を1つのポットに植え替える。

播き付けと同じ配合の用土で、樹種に関係なく、径9cmのビニールポットを使用する。

ポット床替え(床がえ)

このユニットの中に1本の成長した樹木が残ることを想定し、ユニットを配置する。

植樹

ユニットは、根返り跡を想定しており、最終的には10種30~50本の中から1本が自然に選ばれて残る。

径3mの範囲(1ユニット)に5cm厚で砕石かチップ(マルチング)を敷き詰め、用意したものから10種選んで同心円状に植え、記録する。

養生

灌水・管理

ビニールポット

用土が乾いたら灌水し、2ヶ月後から植栽可能で、5年程度植栽可能である。大きくしないことで、長く苗として保たせることができる。

第33回 緑の環境プラン大賞

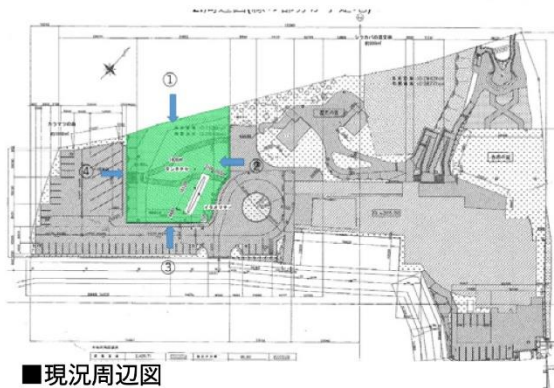
第一生命賞

シンボル・ガーデン部門

札幌イオルの森

北海道札幌市

札幌アイヌ協会



■現況周辺図

アイヌ文化を支える食料や木材などを供給する、居住地（コタン）周辺の山や川の環境「イオル」は、アイヌ文化の振興に不可欠です。「札幌市アイヌ文化交流センター」の敷地の一部に、アイヌ民族が利用してきた在来種の森「イオル空間」を「生態学的混播・混植法」により整備し、アイヌ文化の振興と継承を目指すプランです。

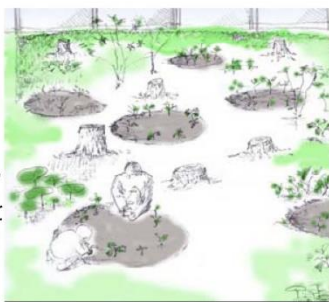


■現況写真 国内外来種であるカラマツが植栽されている

アイヌの人々が生活に使ってきた有用植物を含む在来植物を実生から育て、生物・文化・民族の多様性に資する森づくりである点、アイヌ文化交流センターというアイヌ文化の振興拠点との連携により、文化の生態展示ともいえる「イオルの森」のもつ意味や役割が、広く発信できると期待できる点等が評価されました。

■植栽イメージ

900m²程度の空間を高さ2.5mの防鹿柵で囲い、植栽ユニットに木本8ポット、草本3ポットを植栽する計画



植栽工事時のイメージ



イオルの森の完成イメージ(植栽の10年後)